

大学院保健福祉学研究科博士前期課程看護学専攻

看護学専攻 各看護学特別研究評価ルーブリック

評価項目	A (25 点)	B (20 点)	C (15 点)	D (1 つでもあてはまれば不合格)
看護における現象を科学的根拠に基づき、看護学の専門的知識・技能、情報収集能力を身に付け、看護学の諸問題の解決すべき新たな課題(研究テーマ)を見出すことができる(A-2)	先行研究の文献や資料を丹念に調べ研究分野に関する広範な知識を得たうえで、学術的・社会的に非常に重要な、先端的・独創的な研究テーマを設定することができる。	先行研究の文献や資料を良く調べて研究分野に関する十分な知識を得たうえで、学術的・社会的に重要な研究テーマを設定することができる。	先行研究の文献や資料を調べて研究分野の知識を得たうえで、研究テーマを設定することができる。	先行研究や研究分野に関する知識を持たない。もしくは研究テーマを設定することができない。
看護学の諸問題の課題解決に向けて研究計画を立案し、研究を遂行することができる(A-2)	研究テーマを深く探求して導き出した独創的なアイデアのもと、緻密で論理的な方法で研究計画を立案し、研究を進めることができる。	研究テーマを探求して導き出したアイデアのもと、現実的な方法で研究計画を立案し、研究を進めることができる。	研究テーマに関心を持ち、自分なりの方法で研究計画を立案し、研究を進めることができる。	研究テーマに興味を持たない。もしくは自分で考えて研究を進めることができない。
研究成果を論文にまとめることができる(A-2)	豊富なデータを正確な根拠に基づき分析することにより、新規で独創的な研究結果を導き出し、その結果と考察を整合的かつ論理的に記述することができる。	十分なデータを正確な根拠に基づき分析することにより、新規の研究結果を導き出し、その結果と考察を整合的かつ論理的に記述することができる。	データを分析することにより研究結果を導き出し、その結果と考察を正しく記述することができる。	データを分析することができない。もしくは研究結果を正しく記述することができない。
研究成果を地域や世界に向けて発信することができる(A-2)	修士論文発表会で研究成果と自分の見解を明確に伝えることができ、国内外の学会や学術誌において筆頭著者として主体的に日本語あるいは英語で発表(2回以上)することができる。	修士論文発表会で研究成果と自分の見解を明確に伝えることができ、国内外の学会や学術誌において筆頭著者として日本語で(1回)発表することができる。	修士論文発表会で研究成果と自分の見解を発表することができる。	修士論文発表会で研究成果や自分の見解を発表することができない。もしくは修士論文の要旨を記述することができない。